



豊かな子

明るく、思いやりのある子

夢に向かって、自ら学ぶ子

身体を鍛え、最後までやりぬく子



夏休み作品展



今年も力作が、揃いました。絵画、工作、手芸、書写、自由研究など、作品に取り組んでいる子ども達の姿が目に見え、見て回りました。出来栄で競い合うものではありません。取り組もうとした意思、実際に取り組んだ過程が、大切なことなのです。ひあっしーの能力「自分の力で」の力が、ぐんと成長したことでしょう。ご家族の手助けを受けながら作品作りを進めた思い出は、一生心に残り続けることでしょう。

第70回諫早市小・中学校科学展のご案内

市内40の小中学校から、理科・科学に関する自由研究が、一堂に集まります。

期間 9月11日(木)～17日(水) 9/16は休館日

時間 午前10時～午後6時 (最終日は午後2時まで)

会場 諫早市美術・歴史館



将来、自分らしく、他と認め合いながら生きるために

「将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会」、「AI等の導入で、子ども達が今なりたい職業が将来存在しないかもしれない社会」、これからの日本は、子ども達一人一人の明るい未来を決して保証するものではありません。変化著しい社会の中で、子ども達が夢や目標を持って積極的に自分の将来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず粘り強く前進し、失敗しても諦めず変化に対応していく力と態度を育てることが必要です。



学習指導要領の総則には、キャリア教育の充実が記述されています。

【キャリア教育】

児童が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

そこで、キャリア教育のねらいを、諫早小の子ども達の実態に重ね合わせて考え、次のようなめざす児童の姿を設定してみました。

- ①自分や友達の大切さ、ありがたさに気づき、進んで周りの人と関わりながら、良好な人間関係を築いていこうとする子ども（人間関係形成・社会形成能力）
- ②得意なことや好きなことを生かして将来になりたい自分の姿をイメージしたり、夢や憧れを膨らませたりしながら、自分なりの努力を続けることができる子ども（キャリアプランニング能力）（課題対応能力）
- ③係や委員会、ボランティアなど、自分でできることを見つけて、進んで実践することができる子ども（自己理解・自己管理能力）

『夢・憧れを膨らませ、持続可能な地域形成に向け、諫早市の担い手として諫早が好きになるとともに、諫早に誇りをもつ子どもを育てていく』、『深い児童理解を基にした学級経営を推進し、集団を構成する一員としての意識や関わり方の技能を高めながら、社会形成能力の高まりを目指す』、子ども達の明るい未来につながる取組を工夫していきたいと思います。

救急の日（9．9）

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急業務及び救急医療に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識高揚を図ることを目的に、昭和57年に定められ、以来、9月9日を「救急の日」、この日を含む一週間（日曜日から土曜日まで）を「救急医療週間」としています。（総務省HPより）



子どもたちが、予期せぬ事故に巻き込まれてけがをした場合、またけがをした人を見かけた場合の対応について、全学年で指導しました。近くの人に知らせて、対応してもらうことが、子どもにできる一番の対応策だと思います。

知識としてのけが予防、危険からの回避法をしっかり理解させると同時に、日頃から安全に対する意識を高く持たせることがより重要です。家族の会話の中で、生命尊重の話を繰り返し聞かせてあげて下さい。

